

平安時代から地域の農業を支え続ける

てるいぜきようすい

# 照井堰用水

／岩手県一関市・平泉町

照井堰用水とは、世界かんがい施設遺産と日本の疏水百選に認定されている大穴切頭首工を水源に一関市と平泉町を流れる藤原秀衡の家臣の照井太郎高春が平安時代末期の1180年頃に開削した総延長64kmの人工の用水路です。



▲大穴切頭首工

# Check



▲ウォーキングトレイルと照井堰用水路

水路の多面的機能として、水田へのかんがいをはじめとする農業用水としてだけではなく、地域の生活用水となっているほか、毛越寺浄土庭園への遣水として疏水されています。

- ☞ 農林水産省では、水土里の路ウォーキングコースの一つとして照井堰用水や平泉文化について触れるコースをHP上で紹介しています。

▽水土里の路ウォーキングコース  
(疏水百選・照井堰用水)

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/midori/m-walk/course2/007ter/index.html>



照井堰水路脇の散策道路「ウォーキングトレイル」や水路周辺の建造物を散策することで農業用水としての役割だけでなく水路の多面的機能や歴史について知ることができます！

水田地帯を流れる様子▶



◀住宅街を流れる様子